

考えてみよう、カンボジアと日本の「WONDER4！」

学 校 名：神戸市立東町小学校

指導時数：7時間

名 前：石動 徳子

対象学年：小学4年生

実践教科：総合的な学習の時間

対象人数：154人

1. 教師海外研修を通して感じたこと

何にも代えがたい宝物のような10日間だった。カンボジアの人たちに出会って感じたことは、前向きさ。決して恵まれているとはいえない環境の中で、現在の状況を悲観するというよりも、無いからこれから作っていくのだという前向きさを強く感じた。

また、「日本は、カンボジアにとって最大のドナー国」と聞いていたが、実際に訪れてみて、様々な人が様々なかたちで支援に入っているのだなと実感した。特に、ワットポー小学校の田中千草さんの地道な活動には頭が下がる。田中さんの「まずは人間関係をつくること、相手にとって本当に必要な支援は何なのかを見極めること、どんな方法が相手に合っているのかを考えることが大事。」という言葉が印象に残った。

そして、内戦が本当に多くの物を奪ったのだなと感じた。復興するために、さらに発展していくために、カンボジアの人の努力や他国の支援がある。だが、急速な成長がゆえに出てくるひずみはないのか、カンボジアがどう変化していくのか、今後とても気になる。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

自分自身、他国を訪れるといつも、私たちの生活は当たり前ではないのだと感じる。子どもたちにも、「今の自分たちの生活は、決して当たり前のことではない。他国を知った上で自分たちの生活をふり返し、身近な人や物を大切に、感謝できる人になってほしい。」と思った。また、将来的にこの実践授業が子どもたちの心に少しでも残り、世界に目を向け、国際協力について考えるきっかけになってくれれば…と思った。

実践授業では、カンボジアを訪れていない子どもたちが、いかに身近な国に感じるができるかがポイントだと思った。そのために、子どもたちに伝えたいことはたくさんあるが、一方的ではなく、子どもたちが主体的に活動できる仕組みを取り入れようと思った。また、カンボジアや国際協力に関わる人たちと直接関わる活動（講演会、数回ブロックを贈るなど）を取り入れたいと思った。

(2) 授業の構成 ※名称は「かぼちゃタイム」

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1・2時限目 カンボジアって どんな国？	<ul style="list-style-type: none">●カンボジアの位置を確認する。●カンボジアの概要を知る。●カンボジアの食文化、暮らし、学校の様子などを知る。	<ul style="list-style-type: none">●Google Earth●カンボジアのお土産●カンボジアビンゴ
3時限目 カンボジアの小学生に ズームイン！	<ul style="list-style-type: none">●アンケートから、日本・カンボジアの小学生の共通点や違いを見つける。教育事情を知る。●学校に行けないとどんなことが困るのかを考える。	<ul style="list-style-type: none">●パワーポイント●ペットボトル3種類（クメール語表示）

4 時限目 一体、カンボジアに 何が合ったの？	●カンボジアの歴史（内戦）や地雷について知る。	●パワーポイント ●写真、映像 ●地雷の模型
5 時限目 カンボジアで活躍する 日本人	●カンボジアの発展のために支援を続けている日本人を知る。 ●支援には様々な方法があることに気づく。	●写真、映像 ●500リエル（お札）
6 時限目 カンボジアから 日本へ	●東日本大震災の際、カンボジアから数々の寄付や支援があったことを知る。 ●カンボジアの人がもつ日本の印象を知ること、自分たちの国の良さに気づく。	●写真 ●アンケート
7 時限目 未来へ ～あなたの「大切なもの」は何ですか？～	●カンボジアの小学生や大学生の「大切なもの」を知る。 ●自分の「大切なもの」をふりかえり、自分ができることを考える。	●写真 ●映像 ●ワークシート

※授業を全て終えた段階で、「虹色フェスティバル」（3年生以上が各学級でお店を出す）でカンボジアをテーマとしたお店を出した。子どもたちは、これまで学んだことを今度は全学年に伝える立場になった。また、出前講座として JICA 関西国際協力推進員の秋山玲美さんに講演をしていただいた。国際協力について考え、今日から行動できることを考える良い機会となった。

3. 授業の詳細

1・2時限目：カンボジアってどんな国？

ねらい…カンボジアについて知り、興味をもつ。

◆内容◆

- ① カンボジアの位置を確認する。(Google Earth)
面積・人口・言語などを知る。
- ② カンボジアの食べ物・文化などを知る。
(ものランゲージ：ハスの実・こしょう・クロマー・ハンモック・影絵・教科書)
- ③ カンボジアの伝統音楽を聴く。(CD)
- ④ カンボジアの家や学校の様子を知る。(カンボジアビンゴ)

👉👉がポイント!

今回は導入部分なので、「日本にもあるけれど何か少し違う」ものを選び、児童が興味をもちやすいようにした。

児童の感想

- ▶ クロマーは何にでも使えて便利だな。日本にもあればいいのにな。
- ▶ カンボジアの食べ物を食べてみたい。ふ化しかけのアヒルの卵を食べるのに驚いた。
- ▶ 首都から外れると景色が全然ちがったので驚いた。
- ▶ 文字が音符みたいでおもしろい。書いてみると、とても難しかった。



◆所感◆

Google Earth は、やはり視覚的に分かりやすく位置関係が理解できたようだ。はじめ、児童はカンボジアのことをほぼ知らなかったが、物や写真などを通して、日本との違いに驚きながら興味をもったようだ。「〇〇はカンボジア語で何て言うの?」「次の『かぼちゃタイム』はいつあるの?」という言葉が嬉しかった。

3 時限目：カンボジアの小学生にズームイン！

ねらい…カンボジアの小学生の考えや教育事情を知る。

学校に行けないとどんなことが困るかを考えることで、自分たちが学校に通う意味に気づく。


◆内容◆

- ① アンケート結果から、カンボジアの小学生の考えていることを知る。
(どんな先生が好き？ / もし、100ドルがあったら… / 尊敬する人 / 将来の夢)

  がポイント！

事前に、同じテーマで子どもたちにアンケートをとった。「日本？カンボジア？どっちでしょうクイズ」と題して、比較させた。また、カンボジアの特徴的な答えを虫くい問題にして考えさせることで、自分たちとの違いに気づかせた。

Q4. 将来の夢は何ですか？

- 1位 
2位 パソコン関係の会社
3位 通訳
4位 海外留学(かいがいりゅうがく)
5位 観光(かんこう)関係、
学校の先生

どっちでしょうクイズ

- ② カンボジアの教育事情を知る。(パワーポイント)
③ なぜ学校に行けないのか、学校に行けないとどんなことが困るのかを考える。

  がポイント！

クメール語で表示されている3種類のペットボトル(水・洗剤・消毒液)から、水を見つけ出す疑似体験をすることで、字が読めないと生活に困ることを実感させた。

児童の感想

- ▶ 「将来の夢」で、もっとカンボジアのことを知ってほしいとか、家族のためを思って、という理由で仕事を決めている人がいて、すごいなと思った。
- ▶ 中学校に入学するのが26%と聞いて、びっくりした。かわいそう。
- ▶ もし学校に行けないと、字を読んだり書いたりできないし、買い物も困る。友達もできないし、身の安全も守れない。今、学校に行ける幸せを大切にしたいと思った。

◆所感◆

アンケート結果から、カンボジアの人の「家族を助きたい」「国を良くしたい」という思いを感じとることができたようだ。一方、予想していた通り、「カンボジアの小学生はかわいそう。」という感想をもった子もいた。現時点ではそれでもいいと思っている。そして、その感情が自然に変化していく授業の流れを今後作っていかうと考えている。

4 時限目：一体、カンボジアに何があったの？

ねらい…カンボジアの歴史(内戦)や地雷について知る。

◆内容◆

- ① カンボジアの年齢別人口グラフを見て、気づいたことを話し合う。
- ② 内戦について知る。(パワーポイント)
収容所で使われていたベッドの写真を見て、気づいたことを話し合う。
- ③ 地雷について知る。(パワーポイント)
地雷撤去作業の映像を見る。



▲ トゥールスレン博物館でのベッド

👉 ココがポイント!

事実として伝えながらも、グラフや写真から気づいたことを話し合うなど、出来る限り主体的な活動を入れるようにした。また、地雷撤去については、実際に訪れたときに感じた思いを率直に子どもたちに伝えた。

児童の感想

- ▶ 今日の「かぼちゃタイム」で、「国を良くしたい」と言っていた意味が分かった。
- ▶ ちょっと複雑で、とてもこわいところもあった。今の日本では考えられない。
- ▶ こんなにひどくて、悲しみをもっていただけ、思ってもみなかった。
- ▶ 日本では何気なく黒という色があるけど、カンボジアの人たちにしたらすごくつらい思いが詰まっている色なのだなと思った。

◆所感◆

自分がトゥールスレン虐殺博物館や地雷原で知ったこと、感じたことは多い。正直なところ、この歴史をどこまで子どもたちに伝えたらよいか迷った。だが、事実としてやはり知っておいてほしかった。子どもたちは皆、神妙な表情で聴き入っていた。衝撃は大きかったようだ。だからこそ、カンボジアの人の前向きさ、将来に向けて努力されていることを、子どもたちにも感じてもらえるよう、「さあここから3時間、勝負!」と思った。

5 時限目：カンボジアで活躍する日本人

ねらい…カンボジアの発展のために支援を続ける日本人を知る。
様々な支援の仕方があることに気づく。

◆内容◆

- ① 3つの物から共通点を考える。(500リエル、IKTTの絹織物の写真、有森裕子さんの写真)
→キーワードは「日本からカンボジアへの協力」
- ② その他の支援を知る。((株)クル・クメールボタニカル代表・篠田ちひろさんの写真、日本から贈られた絵本など)
カンボジアの発展のために、日本人もたくさん協力していることに気づく。
- ③ ワットポー小学校の演奏風景(シングルベル・涙そうそう)を見る。聴く。
田中千草さんの活動を知る。感じたことを話し合う。

👉 ココがポイント!

ワットポー小の音楽演奏を聴くこと自体が、子どもたちにとってインパクトのあることだが、田中さんの活動など背景を知った上で聴くことで、さらに理解が深まった。

児童の感想

- ▶日本とカンボジアのつながりがよくわかった。音楽演奏を私も生で聴いてみたい。
- ▶日本語で歌っていたので、相当練習したのだなと思った。
- ▶どうやって楽譜の読み方や日本語の歌い方を教えたのかなと不思議になった。
- ▶物を贈るだけでなく、教えるということも大切なのだなと思った。
- ▶日本からカンボジアへの協力ということを知って、私もなぜかうれしくなった。

◆所感◆

ワットポー小学校の演奏は、前回までに歴史や教育事情を学習し、子どもたちの中にあつたカンボジアの印象とは大きく違つたようだ。また、ちょうど音楽会の練習真っ只中だったので、ワットポー小学校の子どもたちの一生懸命さ、楽しんで演奏している様子は刺激を受けたようだ。

6 時限目：カンボジアから日本へ

ねらい…東日本大震災の際、カンボジアから数々の寄付や支援があつたことを知る。カンボジアの人がもつ日本の印象を知ること、自分たちの国の良さに気づく。

◆内容◆

- ① 写真クイズ「この人たちは何をしていますのでしょうか？」(CJCCでの追悼式の写真) 気づいたことを話し合う。
- ② 他にも寄付や応援メッセージがたくさんあつたことを知る。
- ③ アンケート「日本語を勉強しているカンボジアの学生さんに聞きました」の答えを予想する。
(日本語を勉強している理由、好きな日本語、知っている有名人、日本の印象)



▲ CJCC 追悼式の様子

👉👉がポイント!

日本が支援をしているカンボジアから日本に寄付や支援があつたことを知ることで、一方的な関係ではないことに気づき、つながりを感じられた。

児童の感想

- ▶東日本大震災の事を心配してお坊さんまで呼んでお祈りをしてくれたことが、とてもうれしかった。
- ▶大切なお金を寄付してくれたなんて知らなかった。
- ▶ぼくたちが数回ブロックを贈れたのもよかつたなと改めて思った。
- ▶日本とカンボジアはつながっているのだな。

◆所感◆

前時で「日本からカンボジアへの支援」をテーマに学習したことを受けて、本時ではカンボジアからもたくさん働きかけがあつたことを伝えたかった。子どもたちは、CJCCでの追悼式の写真、興味深く見て班で話し合っていた。また、カンボジアの人が日本のことをどう思っているのか気になっている児童がいたので、授業の後半で扱った。「日本に行つてみたい」「技術や文化に興味がある」などを知り、ちょっぴり誇らしげな様子だった。

7 時限目：未来へ～あなたの“大切なもの”は何ですか？～

ねらい…カンボジアの小学生や大学生の「大切なもの」を知る。
自分の「大切なもの」をふりかえり、自分ができることを考え、行動しようとする。

◆内容◆

- ① ワットポー小学校の子どもたちの「大切なもの」の絵を見て、題名を予想する。
発表している様子を見て、題名や「大切なもの」の理由を知る。(写真、映像)
- ② CJCC の学生の「大切なもの」を知る。(映像)
- ③ 自分の「大切なもの」を考える。これからも大切にしていけるために、自分ができることや努力したいことを考える。(ワークシート)
- ④ チム・メイさんからの、日本の子どもたちへのメッセージを知る。

  がポイント!

「大切なもの」のために自分ができることを考えるだけでなく、身近なことから行動しようとしてほしいので、箇条書きしていき、できそうなことから順番をつけるようにした。

児童の感想

- ▶ 「大切なもの」は家族と言っている人が多かった。前のアンケートでも感じたけど、やっぱり家族思いたな。
- ▶ 今、自分の家がなくても「これから作りたい。」と言っていた。カンボジアの人は明るくて、こっちも元気になった。
- ▶ カンボジアも日本も同じように、みんな1人ひとり「大切なもの」があるのだな。

◆所感◆

カンボジアの小学生や大学生の「大切なもの」を発表している様子を見て、明るさや前向きさを感じたようだ。学級では、やはり「家族」「友達」を挙げている子どもたちが多かった。「困ったときは助ける」「手伝いをする」など書いていたが、身近なところから行動してほしいと思う。最後の、チム・メイさんからの「対立するのではなく、協調を…」というメッセージを聞き、心に響いた様子だった。

4. 成果と課題

約3か月という長期間にかけて授業を進めたので、子どもたちの中にじっくりと浸透したようだった。カンボジアという遠い国のことをどれだけ身近に感じられるかがポイントだと思った。7時間の流れは良かったように思う。最後も、カンボジアの将来や自分たちの生活について考え、前向きな気持ちで終えることができた。ただ、手法としてはもっと子どもたちが主体的に進めるように考えなければ、と思った。当初から気をつけていたものの、やはりこちらが伝える部分が多くなってしまった。だからこそ今後も手法を学びたいと思った。

最後に、同学年の先生方が、私と同じ思いで授業を進めてくださったのが大きい。感謝したい。

参考資料 「カンボジア事情はやわかり」 JICA カンボジア事務所
「学校に行けない世界の子どもたち」 JICA 地球ひろば
本「はたらく地雷探知犬」 講談社
本「あなたのたいせつなものはなんですか？－カンボジアより」 小学館